

GALILEI

FUKUSHIMA GALILEI CO. LTD.

フクシマガリレイ株式会社
統合報告書 2022

GALILEI
Be cool, Be alive.

フクシマガリレイ株式会社

FUKUSHIMA GALILEI CO. LTD.

〒555-0011 大阪府大阪市西淀川区竹島2-6-18
Tel. 06-6477-2011 / Fax. 06-6477-0755
www.galilei.co.jp

(2022-11)D



GALILEI

Be cool, Be alive.

GALILEIには、天動説が常識とされていた時代に地動説を主張したガリレオ・ガリレイのように、固定観念にとらわれずに発想し、創造するという使命を込めています。わたしたちグループは、新しいことや誰もやっていないことを創造する。グループが結束して哲学と信念をもって最後までやり抜く。そして、世界中へ食の幸せを届け人々の人生を豊かにしていきます。

ブランドメッセージ「Be cool, Be alive.」には、たくさんの思いを込めました。Cool = 冷たく。賢く。カッコよく。Alive = 生きている、いのちがある。生きているいのち(食材)を、冷やして、賢く、生きているいのちへ繋ぎたい。再びの「いのち」として活かしたい。

そんな思いを、熱く、宣言しました。

環境・安全・安心をテーマに
「幸せ創造企業」を目指します

ガリレイグループの企業理念

第1項 生活者の幸せ	わたしたちは、環境・安全・安心をテーマにお客様と協働し、生活者の「幸せ」に寄与することを基本使命とします。
第2項 お客様の幸せ	わたしたちは、独自の技術とシステムにより、フードビジネスに新しい価値を創造し、お客様の「幸せ」に貢献することを基本使命とします。
第3項 社員の幸せ	わたしたちは、自己責任能力を高め、自身と社業の成長を通じて、物心両面の「幸せ」を追求することを基本使命とします。
第4項 株主・お取引先の幸せ	わたしたちは、将来への目標を共有し、常に業績向上に努め株主やお取引先に「幸せ」を提供することを基本使命とします。

企業行動憲章

- ・食の安全・安心
- ・お客さま満足の追求
- ・環境保護
- ・社会貢献
- ・グローバル
- ・法令遵守
- ・公平・公正な取引
- ・従業員の尊重
- ・情報開示
- ・情報管理
- ・反社会的勢力への姿勢

社員行動指針

- ・食の安全・安心 —— いつでもどこでも食の安全・安心を
- ・顧客志向・顧客重視 — お客様にどっぷり浸かる
- ・チームワーク —— チームGALILEIで限界に挑戦
- ・独創性・先見性 —— 未来に向かって大胆に挑戦
- ・教育 —— 人を育てて、自分も磨く
- ・ルール厳守 —— 当たり前を、当たり前前に

CONTENTS

- 03-06 [対談] 経営新体制を迎えて
- 07-10 [特集] 4つの重点テーマ
- 11-12 コアコンピタンス
- 13-14 価値創造モデル

事業別紹介

- 15 冷凍冷蔵事業
- 16 ショーケース事業
- 17 FMS事業
- 18 サービス事業
- 19 エンジニアリング事業
- 20 ガリレイパネルクリエイト株式会社
- 21 タカハシガリレイ株式会社
- 22 ショウケンガリレイ株式会社
- 23 海外事業
- 24 事業別の売上高推移

ESGの取り組み

- 25-26 サステナビリティへの取り組み
- 27-30 サステナブルビジョン
- 31-32 環境方針・環境実績
- 33-34 社会貢献
- 35-37 人材の確保・育成
- 38-39 コーポレート・ガバナンス
- 40 財務ハイライト
- 41-42 コーポレートデータ

編集方針

株主・投資家ならびにステークホルダーの皆様へ、財務・非財務の両面から、ガリレイグループの中長期的な価値創造のプロセスおよび成長戦略をお伝えすることを目的としています。

報告対象期間

2021年度(2021年4月1日~2022年3月31日)
一部、対象期間外の活動を掲載しております。

報告対象組織

フクシマガリレイ株式会社および連結子会社

発行

2022年11月

経営新体制を迎えて

2022年6月、フクシマガリレイ株式会社は新たに代表取締役を2名体制とし、福島 豪が代表取締役 社長執行役員 COO、福島 裕が代表取締役会長 CEOに就任しました。このたびの経営基盤の強化、そしてこれからの経営および事業の展望について両代表取締役がその思いを語り合いました。



代表取締役 社長執行役員 COO
福島 豪

代表取締役会長 CEO
福島 裕

ガリレイの未来を見据えた新体制の発足

会長 社長交代については、一年ほど前から構想していました。2021年に創業70周年の節目を迎えたということもありますが、何よりもガリレイグループに若い社員が増えてきたことが新体制への移行の背景にあります。経営が若返ることで、グループ全体でこれからの会社と一緒につくっていくというモチベーションをさらに上げていければという考えのもと、今回の決断に至りました。

社長 わたし自身もいつかこの日が来るということは考えていました。新しい時代を切り拓いていくという心構えを強く持つようになったきっかけは2019年の「ガリレイ」へのグループブランド統一のタイミングです。ガリレイのブランディングは社員と共に考え、形にしてきたプロジェクトです。このプロセスを経て、わたしだけでなく、社員全員が明確に未来を見据えて歩き始めたと感じています。

経営の「監督」と「執行」の強化で次のステージへ

会長 新しい体制では、社長が交代したということのみではなく、ガバナンスの観点から経営の監督および執行の機能を大幅に強化^{*1}しました。社長は、役職に「執行役員」とある通り、執行に関する総責任者であり、執行を通じて経営を行う。それに対して、代表取締役会長であるわたしが、経営の総責任者として、経験を活かした支援、指導を行っていきます。

社長 社長執行役員として、まずは目標である売上1,000億円を達成することが一つの大きな責任だと考えています。そのためには、やはりグループ丸となって進むことが重要です。難しい舵取りが続いた2021年度でしたが、2022年度に入ってから各事業が持ち直してきつつありますので、しっかりとみんながベクトルを合わせて一つひとつのプロジェクトに丁寧に対応すれ

ば、売上も利益もしっかり出るという手応えは感じています。

ガリレイグループの挑戦を象徴する4つのキーワード

社長 このたびの社長就任に際して、わたしは「S・D・G・人」という合言葉を掲げました。この「S・D・G・人」は、ガリレイグループがこれから特に力を入れていくテーマを象徴する、4つのキーワードからできています。

S(サステナブル)

社長 当社の事業は、地球温暖化という問題に対して、非常に大きな責任を負っていると考えています。製品の使用電力に伴うCO₂排出の問題は避けては通れませんし、冷媒のGWP値(地球温暖化係数)も大きな課題です。脱炭素社会の実現に向けて、サステナブルビジョン「Dramatic Future 2050」^{*2}や「環境アクション2030」^{*3}を2021年に策定したのは、そうした問題意識に根付いています。

この社会問題の解決に向け、2022年6月、脱炭素社会をリードするブランド「NOBRAC(ノブラック)」^{*3}を発表しました。2022年秋よりノンフロン^{*3}のCO₂冷媒ユニットの発売を開始しています。近年、大手食品メーカーや物流会社を中心に、自然冷媒へのニーズが高まっていますが、当社の技術と知見を活かせば、自社で自然冷媒のユニットをつくれると判断し、2年ほど前から研究を進めてきたものが形になりました。

会長 自然冷媒については専門メーカーに掛け合っていたが、日本では環境製品へのマーケットは欧州諸国ほど大きくはなく、なかなか改革への一歩が進まないという実情がありました。そこで、自分たちでやる以外に道はないという結論を出し、進めてきたのが「NOBRAC」のプロジェクトです。「Dramatic Future 2050」をはじめ、環境問題への具体的なマイルストーンを打ち出すということは非常に覚悟のいることです。しかし、わたしたちは、何としてもこの目

*1 コーポレート・ガバナンス ▶ P.38

*2 サステナブルビジョン「Dramatic Future 2050」 ▶ P.27

*3 SUSTAINABLE 特集ページ ▶ P.07



標を達成しなければならないという強い意志のもと取り組みを進めています。

D (デジタル)

社長 当社のDXへの取り組みについては“守りのDX”と“攻めのDX”の2つの側面があります。“守りのDX”は当社の基幹システムの刷新を意味し、よりスピーディーかつ正確に決算を進め、生産性を上げていくためのものです。一方、“攻めのDX”は、[「Zero Call Company」](#)^{*4}、すなわち機器が故障する前にわたしたちが察知して事前に対処することで、お客様からのトラブルのコールゼロを目指すというコンセプトを実現するための取り組みです。そのために、当社では以前から製品のIoT化を推進しており、大量のビッグデータに対してAIが故障の原因、修理に必要な道具や人員の数までを診断するシステムを構築してきました。これにより、お客様の元へ伺う回数を減らし、作業をスムーズに行うことができます。まだ検証段階の部分もありますが、実際に効果が出てきており、非常に手応えを感じています。

会長 当社は世の中にインターネットが普及し始めたこ

ろから、店舗とサービスセンターをつなぐということをやってきました。そして今、2,000を超える店舗のショーケース一台一台とIoTでつながっています。わたしたちが冷媒漏れ10年保証を標榜していることの裏付けには、これまで積み上げてきた膨大なデータと最新鋭の技術の活用があります。

G (グローバル)

社長 海外事業の売上は、現在5~6%程度です。しかし、これまで30年以上アジアで事業を行ってきて、一定のインフラを台湾や香港を中心に築くことができました。次はこれに対してどう投資をしていくのかということが重要で、[タイ工場の生産ライン増設](#)^{*5}は、その一つ。この工場で何を作り、どのようなニーズに対応していくことができるのかを検証しています。

会長 香港に駐在事務所を開設したのが1989年のこと。当時は市場規模も非常に小さいように感じていましたが、今は日本とほとんど変わりません。この地で30年も前から事業を展開しているということは、ガリレイにとってこれから大きな財産になるはずで



人 (人材)

社長 人材は非常に重視しています。この業界では技術者の高齢化が進んでおり、後継ぎがなく廃業を選択される事業者もおられます。これでは食の安心・安全を持続的に守ることはできません。そこで、まずわたしたちがやるべきことは、ガリレイグループに入ってくる若者をいち早くプロフェッショナルの技能者に育成すること。そして、将来的には当社の社員だけではなく、この業界全体の人材育成にまで広げていけたらと考えています。そういった想いで作ったのが[ガリレイアカデミー](#)^{*6}です。2022年10月現在、三期がスタートしており、着実に人材が育っています。

グループシナジーを活かして、 唯一無二の存在へ

会長 冷凍冷蔵機器だけを扱う会社は、世の中にたくさんあります。しかし、部品やパーツの製造から行い、メンテナンスまですべてを一貫して行うことができるのはガリレイだけであり、非常にユニークなグループになったと自負しています。

社長 確かにガリレイは唯一無二の存在だと思います。各分野で業界NO.1、NO.2の実力を持つ会社の集まりが、このガリレイグループ。しかも、どの会社も食にまつわる仕事をしているので、それぞれが持つ情報を共有し、

三次元的に連携させることで、よりお客様の役に立つことができます。特にここ数年はグループシナジーが生まれ、効率よく仕事が動いているのがわかります。

社会の皆様が必要とされる 会社であり続けたい

会長 ガリレイというブランドができ、時が経つにつれて「ガリレイさん」と呼んでくれるお客様が増えて、ブランドが根付いてきたと実感しています。また、グループシナジーの強化という点では、「第三の工場」と位置付けているMILAB (ミラボ) の存在も非常に大きいです。MILABは2022年9月末時点で6,986名の来場者数を記録しており、わたしたちと協働で新しい事業や商品の開発を行いたいというユーザーがたくさんお越しくださっています。今後もコミュニケーションを深め、新たな価値の発信地として活用していきます。

社長 改めて、今、社長に就任して思うことは、1,000億円の売上を目指す企業は社会的な責任が非常に大きいということです。その一方で、オリジナリティも非常に大切なこと。オンリーワンの企業として、「やっぱりガリレイ」と言ってもらってパートナーとして選ばれる会社になれるように努力していきます。そして、お客様をはじめ、ステークホルダーの皆様喜んでもらえるグループを目指していきます。

*4 DIGITAL 特集ページ ▶ P.08

*5 GLOBAL 特集ページ ▶ P.09

*6 人材特集ページ ▶ P.10

01 SUSTAINABLE



自社開発のCO₂冷媒ユニット “NOBRAC” 発売

2022年6月、脱炭素社会の実現をリードする新ブランド“NOBRAC”（ノブラック）を発表し、2022年秋よりノンフロンCO₂冷媒ユニットの発売を開始しました。当社は気候変動への具体的な対策として「グリーン冷媒への転換」や「CO₂排出量削減」への取り組みを推進しており、“NOBRAC”の提供・普及を通じてグループを挙げて脱炭素社会の実現に貢献していきます。



ブランド名の由来
CO₂増加の世の中の流れを逆転させる
という思いを込め、CARBON（炭素）を
逆から読んだブランド名としています。

NEW RELEASE CO₂冷媒トランスクリティカルブースターユニット

最大
20%
省エネ

冷媒自体の温暖化係数 (GWP) が
フロン冷媒に比べ約 1/1400~1/4000

CO ₂	GWP	冷媒種別
1	1,387	R-448A
	2,090	R-410A
	3,920	R-404A

FEATURE 1

**圧倒的な
環境性能と経済性**

温暖化係数が極小のCO₂冷媒を採用し、冷媒漏えいによる環境負荷を低減。また、従来のフロン機と比較して、最大20%の消費電力量削減が期待できます。

FEATURE 2

**冷凍機とフリーザーとの
最適制御**

食品工場・冷凍冷蔵倉庫を対象に、トンネルフリーザー専用機種3種、冷凍冷蔵倉庫用冷凍機5種をリリース。運転状況を相互に反映させることで運転制御の自動最適化に対応します。

FEATURE 3

**安全・安心・
メンテナンスフリー**

機器の24時間遠隔監視を標準化。異常監視に加え冷媒漏れ検知システムによる予防保全を実現しました。また、シンプルな構成でメンテナンス部品点数も削減しています。

02 DIGITAL

「直す」から「止めない」へ DXにより機器トラブルを未然に防ぐ

DXによる「Zero Call Company」の実現を目指し、2022年秋に刷新した社内システム「G-Compass」。お客様である店舗とフクシマガリレイが常にネットワーク上でつながり、稼働中の業務用冷蔵庫や冷蔵ショーケースなどの機器の状態を24時間体制でデータ管理し、万が一異常が発生した場合には、自動的に当社へ修理の手配が行われることで、お客様の機器トラブル時の連絡やその後の対応などの煩わしさから解放される世界の実現を目指します。万が一、機器が故障した場合も、G-Compassが予測した故障原因の情報を、派遣するフィールドエンジニアに伝え、必要な部品を持参して訪問することで、故障から復旧までのリードタイムを短縮しお客様の営業機会ロスを大幅に削減することが可能となります。



グループ全体の規模拡大に伴い、 基幹システムをクラウド上で再構築

フクシマガリレイは、デジタル変革に向けて、これまでに2019年から段階的に受注管理、保守点検・修理サービス管理システムなどの主要な業務システムの再構築および、パブリッククラウド上に全社共通基盤の構築を行ってきました。さらなるデジタル変革の中核となる「次世代基幹システム」として、2022年秋に国内グループ会社の会計領域について「SAP S/4HANA®」、およびSaaS型分析クラウド「SAP® Analytics Cloud」をクラウドの共通基盤上で構築しました。

TOPICS

**スマート診断のキーデバイス
新型ホストコントローラー「AURO」**

スーパーマーケットで使用される冷凍冷蔵ショーケースや冷凍冷蔵庫を集中制御するホストコントローラーAURO（アウロ）を発売しました。スマート診断ロジックにて、日々の運転チェックを行い、機器の異常を早期に発見することで故障を未然に防止します。ショーケースや冷蔵庫を「直す」から「止めない」にスタイルチェンジを図るためのキーデバイスとなります。

03

GLOBAL

タイ工場の生産力強化 ラインナップ拡充 さらなるグローバル化を推進

タイ工場はガリレイグループの海外生産工場として2015年8月より業務用冷凍冷蔵庫の製造を行っています。高品質で省エネ・環境に配慮した製品で、現在の販売網はタイを含むアジア11拠点。2021年1月に第2期工事が完了し、アジアのお客様のご要望にお応えするためショーケースの製造を開始しました。ノンフロン機器の製造など、さらなるラインナップの拡充も計画しております。アジアの生産拠点として、生産能力と対応力をさらに高め、皆様のニーズに応えていきます。



1 「Japan Quality」でお役立ち



高品質と省エネ性能を備えた製品、ガリレイならではの食の川上から川下まで支える技術力で、アジアの人々の食の安全と幸せに貢献します。

2 各国の拠点で日系企業の進出をサポート



1989年に香港現地拠点を設立して以降、中国・東南アジア11の国と地域に現地法人を設立し、海外での店舗出店や食品工場設立を目指す日系企業のサポートに取り組んでいます。

3 現地社員の採用強化 ローカル化を推進



ローカルユーザー、代理店との関係を重視し、各国に根付いた営業活動を展開すると同時に、現地社員を積極的に採用し、将来会社運営を担うマネージャーとして育成に注力しています。

TOPICS

海外初となる補助金案件としてガリレイエアテックシステム導入

導入事例 PAPAAYA FRESH GALLERYチカラン店様

インドネシアの主要都市ジャカルタを中心に幅広く店舗展開する、日系スーパーマーケットPAPAAYA FRESH GALLERY様。日本人が多く在住するチカランエリアの新店舗に、店内環境を最適化するガリレイエアテックシステムと冷凍冷蔵ショーケース、各種設備機器を納入しました。また、インドネシアのスーパーマーケットとして初めて地球温暖化係数が低いR-448A (GWP: 1387) を納入。SDGsに対する意識喚起や取り組みにもつなげることができました。



04

HUMAN RESOURCES

人材育成へさらなる注力、 ガリレイグループの強みを最大化する

わたしたちが描くありたい姿「食といのちの未来を拓く挑戦者」の実現には人材が必要不可欠です。あらゆる仕事に挑戦できる人材を育て、挑戦できる風土を作っていく。教育体制の整備、従業員エンゲージメントの向上に取り組みます。

▶▶ 参照:P.35 人材の確保・育成

独自の人材育成機関 ガリレイアカデミー開校



2022年に人材力強化と早期活躍支援のための教育課程として、ガリレイアカデミーを開校しました。

冷凍冷蔵技術は、食のインフラを支えていくうえでなくてはならない技術です。当社のみならず業界全体で技術者の高齢化、若年層の離職率の高さなど後継者育成が困難であることが大きな課題となっています。そこで、ベテラン技術者による若年層育成、それによる技術力向上と技術サービスの安定供給を目指し、ガリレイアカデミーの設立に至りました。

ガリレイアカデミーでは約2か月間の実習で、製品の基礎知識から修理・メンテナンス、施工技術などを座学や実機研修を通して習得します。カリキュラムの後半には、OJTを実施し、実際の業務を通じて理解度の向上および対応力を磨き、即戦力となる人材を育成します。さらに、国家資格である第三種冷凍機械責任者、第二種電気工事士の資格取得を支援しています。

技術力を高めて社会に役立つことで仕事にやりがいを持ち、イキイキと成長していく人材を育てることを、ガリレイアカデミーは目指しています。



VOICE

修了者の声

- ▶ 職場に戻って仕事の成果を出すことがガリレイアカデミーへの恩返しになると思うので頑張りたいです。
- ▶ 実習を終えて、技術、知識、仲間、ライバル、目標と多くのものを得ることができました。サービスマンとして、社会人として、人間としてアカデミーで学ぶ前よりも成長することができたと強く感じています。



食のフィールドを川上から川下まで—— 冷やす力とエンジニアリング力でトータルサポート

業務用冷凍冷蔵庫、ショーケースの製造を起点として、

「冷やす技術」を軸に、外食や小売（第3次産業）のフィールドで成長してきたフクシマガリレイ。

70年を超える歩みの中で、その価値創造の領域はグループ全体として食品の製造工場や生産地にまで広がり、

第1次産業から第3次産業に及ぶコールドチェーンを担う国内唯一のメーカーとして、多様な社会課題の解決に貢献しています。

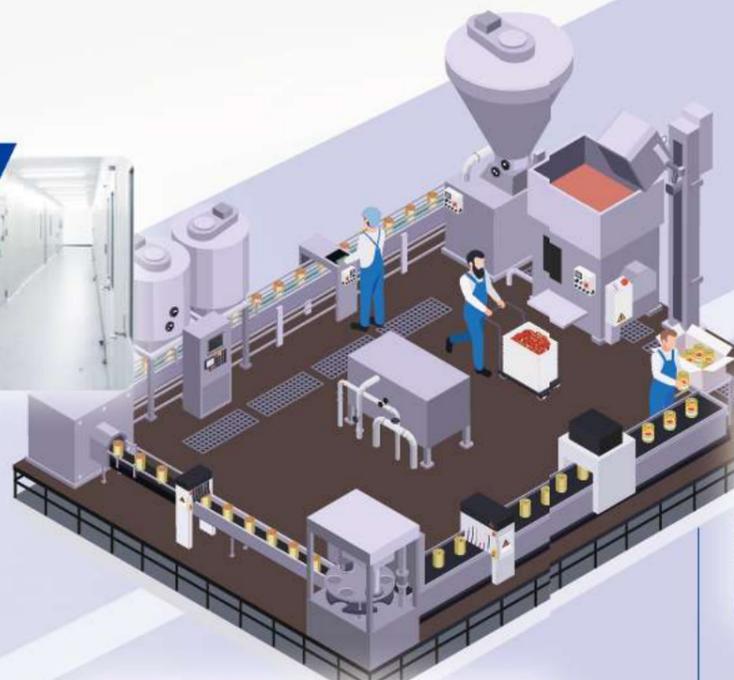
第1次産業

[農業・漁業]

食材の鮮度を保つとともに生産段階でのフードロス削減、資源のムダを減らすことによって社会全体のカーボンニュートラルにも貢献しています。



ガリレイパネルクリエイト



タカハシガリレイ



ショウケンガリレイ

第2次産業

[製造業・倉庫業]

食品工場やセントラルキッチン、低温物流倉庫などに向けてトンネルフリーザー®などの急速冷却・凍結装置や環境、制御システムを提供。食品加工プロセス全体の衛生管理や省人化、また賞味期限延長によるフードロス削減にも貢献しています。



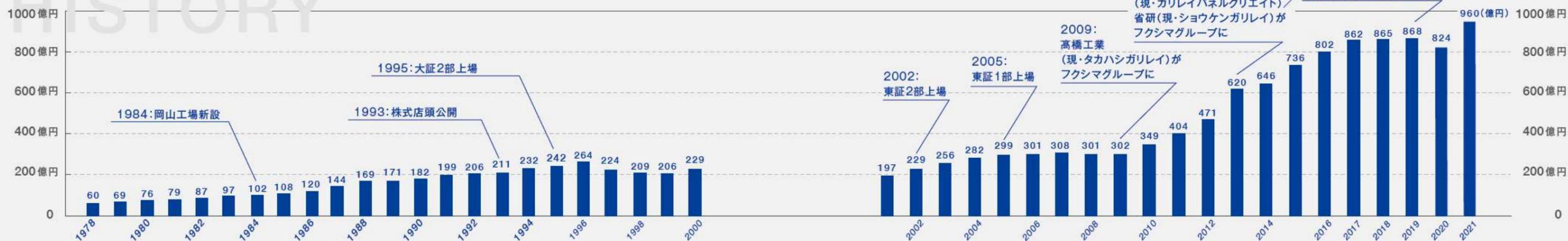
フクシマガリレイ

第3次産業

[外食産業・小売業]

業務用冷凍冷蔵庫・ショーケース合わせて年間約130,000台もの製品を出荷。お店や家庭の食卓を彩る食の安全・安心を支えています。

価値創造の領域拡大とともに成長を続けるガリレイグループ [売上推移]



価値創造モデル

わたしたちガリレイグループは、生活に不可欠な食のライフラインを支える企業として、世界中の食生活の品質向上を図るために事業領域の拡大と冷やす技術をさらに進化させていきます。スマートシフトをより加速させ、成長を続けながら、世界におけるフードビジネスのリーディングカンパニーとして、革新的なイノベーションを創造し続け、持続可能な社会の実現に貢献し、社会的責任を果たしていきます。

社会・環境の変化



INPUT

投入する資本

財務資本

安定した財務体質
自己資本比率69.3%
(2022年3月末現在)

知的資本

グループ各社が蓄積する
独自のコア技術と
開発提案力

製造資本

グローバル展開する
生産拠点
(岡山・滋賀(水口)・タイなど)

人的資本

グループ統一の理念を
実践する
従業員2,320人(2022年3月末現在)

社会/関係資本

仕入先・代理店・地域
社会との信頼関係
国内74カ所・海外11カ所の
支店・支社・営業所

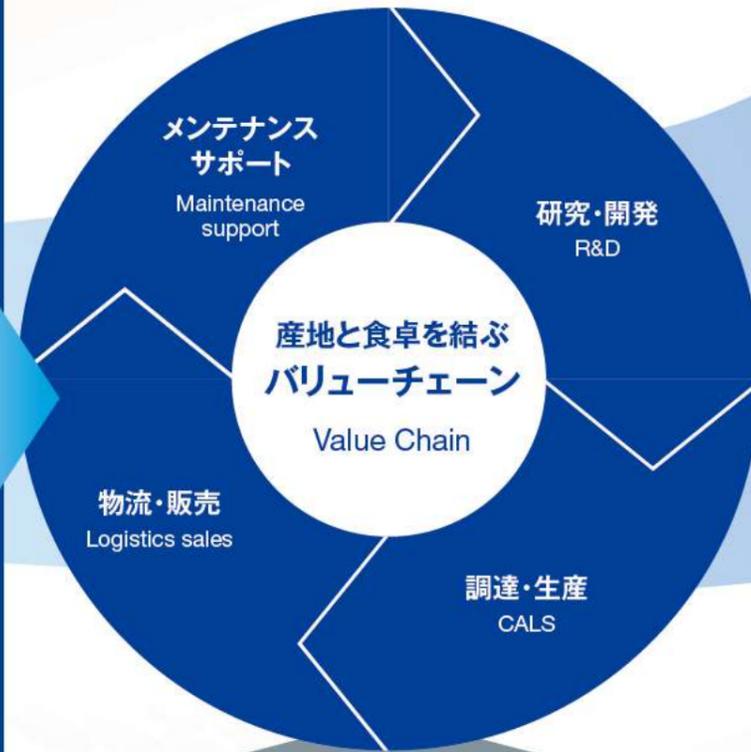
自然資本

限りあるエネルギー資源

コアコンピタンス



食の川上から川下まで
ガリレイグループの
全社連携 **P11**



人材の確保・育成 **P35**

ガリレイアカデミー・全社研修制度の拡充

コーポレート・ガバナンス **P38**

OUTPUT

事業を通じた提供価値

フクシマガリレイ

飲食店の厨房などで主に利用される「業務用冷凍冷蔵庫」、スーパーの売場で生鮮食品などを陳列する「冷凍・冷蔵ショーケース」を中心に、フード機器の専門メーカーとして食を支え、高度な温度コントロール技術で業界をリードしています。

冷凍冷蔵庫事業 **P.15**

ショーケース事業 **P.16**

FMS事業 **P.17**

サービス事業 **P.18**

エンジニアリング事業 **P.19**

海外事業 **P.23**

タカハシガリレイ **P.21**

連続式の急速凍結・冷却装置「トンネルフリーザー®」を業界で初めて開発・設計・製造したパイオニアです。創業から60年の実績と国内シェアNO.1を誇ります。

ガリレイパネルクリエイト **P.20**

高性能断熱パネルの技術とシステムエンジニアリングで、食品加工工場、植物工場などに最適な「冷凍冷蔵庫空間」「クリーンな作業空間」を提供しています。

ショウケンガリレイ **P.22**

1968年の創業以来、食品工場向け機械設備・駆動系装置の専門メーカーとして、数多くの生産ライン・物流ラインの自動化・省人化・省力化を実現しています。

OUTCOME

実現する未来

Dramatic Future 2050

誰もがワクワクする未来を拓く、ガリレイグループ

環境 Vision 2050 環境ビジョン2050

- ① グループ全体で温室効果ガスからの脱却を
- ② 冷媒をはじめ、クールな技術で地球温暖化をゼロに
- ③ 環境と真剣に向き合うお客さまから選ばれる存在に

環境 Action 2030 環境アクション2030



ガリレイグループ SDGs宣言

宣言1 生活者の食生活品質の向上を

食の安全・安心の追求

- ・急速冷却・解凍技術で菌の繁殖を抑える
- ・AIによるプレメンテナンスとHACCP支援を実現するシステム開発
- ・産学連携の場となるMILAB
- ・トータル提案・設計・施工できるエンジニアリング事業

フードロスの低減

- ・コールドチェーンで食品の鮮度維持
- ・トンネルフリーザー®で消費期限をより長く

宣言2 地球環境にもっとやさしく

気候変動への適応と緩和

- ・グループの全製品・設備における、低GWP冷媒、自然冷媒への急速な転換
- ・冷媒漏れ検知システムと製品品質・工事施工技術の向上で、冷媒漏れ10年保証を実現する

持続可能な地域環境への貢献

- ・冷凍冷蔵庫・空調・給排気・換気までAIでコントロールし、省エネ・快適、そして感染症対策まで考慮した店舗づくり
- ・ITを駆使したサービタイゼーション
- ・LCAを意識した製品開発
- ・省エネルギーの追求

<対応するSDGs>



<対応するSDGs>



SDGs 13

「気候変動対策」を最重要課題と特定





冷凍冷蔵事業

REFRIGERATOR AND FREEZER OPERATIONS

外食産業の新しいニーズに
ニューノーマルな製品づくりで応える

フクシマガリレイの原点である業務用冷凍冷蔵庫。
これまでに培われた温度コントロールの技術で飲食店の厨房を大きく変革させ、食の「安全・安心」、さらなる「おいしさ」を実現します。

2021年度レビュー

食生活の変化に合わせて、 設備投資が加速

2021年度は上期から材料費の高騰が顕著になり、業績にも大きく影響しました。一方で、コロナ禍以降、厳しい経営が続く飲食店が新たな形態（EC、テイクアウト、自動販売機等）へ転換を図るケースが増えており、当社の冷やす技術が求められる環境が広がっています。こうした大きな変化の中で、限られたスペースしかない厨房でも導入でき、単相100V電源で急速凍結までできるプラスチック100Vを発売しました。このように新たな設備投資のニーズを捉えた製品開発が推進力となり、業績はコロナ禍以前に近い水準まで回復しつつあります。

事業の強みと今後の展望

グループの強みを最大限に活かし、 他社にない価値を届ける

当グループの強みは、製造、販売、施工、メンテナンスと、すべての工程を自社で完結できることです。製品ラインナップにおいても、店舗内厨房で使用できるような小型から食品工場で活躍する大型のものまで幅広く揃えており、さらにいずれも自社でメンテナンスできるため、納入後も長く使い続けていただけます。また、当社では開発と営業が製販一体となって製品開発に取り組んでいます。ユーザーに寄り添った営業活動を通じて、ユーザーの視点を取り入れた製品開発を行うことで、市場のニーズを先取りし、今後のさらなる売上拡大につなげていきます。



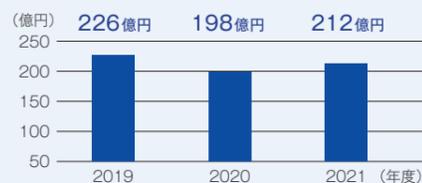
受取用コールドロッカー
飲食店のテイクアウトやネットスーパーの商品受取が無人で可能。冷凍機を製品下部に設置することで、最下段でも出し入れがしやすい。

TOPICS × HUMAN RESOURCES

知識と技術はもちろん、 良い考え方も備えた人材の育成へ

すべての職種において、お客様に寄り添える人材の育成は事業の生命線であり、知識や技術はもちろん、それらを支える考え方が重要です。当社ではスキルの習得と併せてお客様と接する際の一人ひとりのプロフェッショナルとしての心構えや人間性の涵養を重視しており、ガリレイアカデミーをはじめとする独自の人材教育プログラムを強化しています。

製品・サービス別売上高



主要なエンドユーザー

- ・飲食店(厨房)
- ・流通小売店舗のバックヤード厨房(惣菜製造など)
- ・ペーカリー
- ・給食センター
- ・介護老人福祉施設

主要販売品目

- ・業務用冷凍冷蔵庫(縦型・台下)(The Galileiシリーズ)
- ・製氷機(MIRACLEAR)
- ・ドゥコンディショナー(パン種の発酵機)
- ・プラスチックラー(急速凍結庫)
- ・解凍庫
- ・冷凍冷蔵ロッカー(非対面持ち帰り用ロッカー)



プラスチックラー/ショックフリーザー 100V
単相100V電源で-40℃での急速冷却・急速凍結が可能なコンパクトモデル。2021年度にモデルチェンジを実施。地球温暖化係数の低い冷媒R-448A(GWP:1387)を採用。



ショーケース事業

SHOWCASE OPERATIONS

ユーザーインのものづくりで
未来の店舗を創造する

冷凍・冷蔵ショーケースにとどまらず、さらなる省エネ化が求められる店舗全体で、エネルギーをコントロールして省エネを図るマネジメントシステムを提供しています。

2021年度レビュー

食の家庭内消費が高まり、 設備投資が活況に

2020年度から2021年度にかけて、コロナ禍における生活習慣の変化や家庭内消費の増加により、ショーケース事業のメイン顧客であるスーパーマーケットやドラッグストアなどの売上が好調でした。それに伴う新店、改装などの設備投資の需要も増加し、ショーケース事業の業績も堅調に推移しました。需要の高まりと同時に、市場におけるシェアを拡大することもでき、お客様からさらなるご支持を得られたことを実感しています。また、『Dramatic Future 2050』の取り組みの一つとして、自然冷媒を使用したショーケースを積極的に提案しており、特にコンビニエンスストア業界から高い関心が寄せられ、新店・改装の発注、お問い合わせが増加しています。

事業の強みと今後の展望

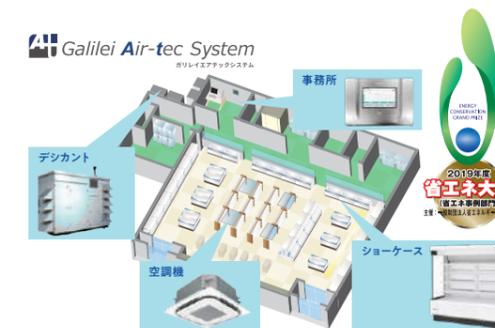
ショーケースの販売だけでなく、 店内環境のコンサルタントまで

ショーケース事業は、製販一体となったユーザー目線の製品・システム・サービスの開発・提案を積極的に推進しています。2022年は段ボールでの商品陳列がスムーズに行え、省人力化につながるフリップアップ棚や、常温食品の隣に要冷食品を陳列でき、買い物効率アップにつながる「コンパクトインショーケース」の販売を開始しました。また、小売流通業界では昨今のエネルギー高騰が最大の課題となっています。当社では、ショーケースだけでなくとどまらず、空調、換気の制御と除湿をキーデバイスに適切に行い、店内環境を快適にしながら空間全体で省エネを目指す「ガリレイエアテックシステム」を開発し、導入しています。自然冷媒を中心とした製品販売にも力を入れ、より環境にやさしい店舗づくりの力になりたいと考えています。

TOPICS × SUSTAINABLE

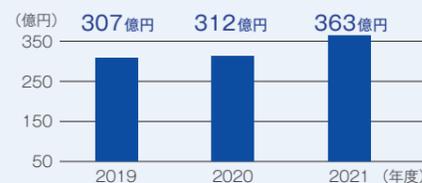
自然冷媒と冷媒ガス漏洩防止で 脱炭素社会の実現に貢献

ガリレイグループは、脱炭素社会の実現に向けさまざまなサステナビリティへの取り組みを進めています。その中の一として推進しているのが、温暖化への影響がほとんど無い自然冷媒への転換です。また、特にショーケースは集中制御の導入が進んでいる分野であり、納入後においてもITを駆使したプレメンテナン(予防保全)の拡充を通じて、冷媒ガス漏洩防止にも取り組んでいます。



次世代空調システム「ガリレイエアテックシステム」

製品・サービス別売上高



主要なエンドユーザー

- ・スーパーマーケット
- ・コンビニエンスストア
- ・ドラッグストア

主要販売品目

- ・別置型ショーケース (CLAIR Send-you)
- ・内蔵型ショーケース
- ・アイランドショーケース



コンパクトインショーケース MEGシリーズ
関連した常温食品と要冷食品を同じ売り場で販売することが可能。地球温暖化係数の低い冷媒R-448A(GWP:1387)を採用。



FMS 事業

MEDICAL SCIENCE OPERATIONS

社内外との連携を深め
メディカル・ライフサイエンスの発展に貢献する

低温インキュベーターや薬用保冷庫、メディカルフリーザー、超低温フリーザー、血液用冷蔵庫など、業務用冷蔵庫で培った温度コントロールの技術を応用して、医療や研究開発の現場を支えます。

2021年度レビュー

薬用保冷庫に加えて、 プレハブ庫の発注も伸長

2021年度は前年度に引き続き、新型コロナウイルスのワクチンや検査薬を保管する薬用保冷庫、メディカルフリーザーを多くの医療機関に納入し、前年度比で約5億円を積み上げる形で売上を大きく伸ばすことができました。また、再生医療に関わる大型案件も継続して売上を重ねることができ、順調な業績推移につながりました。さらに、保冷庫に加えて、薬品卸向けのプレハブ庫の施工など、グループシナジーを活かした大型案件も多くご依頼いただきました。

事業の強みと今後の展望

ノンフロン冷媒の薬用保冷庫で 医療分野の脱炭素化に貢献

当社は「食」で培ってきた温度コントロール技術を応用して、医療・理化学分野でも幅広い製品をラインナップしています。2021年発売の「超低温フリーザー」においては、5機種の新製品を追加しました。加えて、拠点のネットワークを活かしたサービスメンテナンスを提供することも強みです。また、今後の注力分野の一つである研究市場においては、事業化されていく中でいかに共創の関係を築けるかが重要です。研究段階からの細やかなフォローと、事業化のサポートに尽力していきます。グループ会社と連携して提案する機会も増えており、冷蔵倉庫の運用など、当社の経験と技術で医薬品業界におけるコールドチェーン構築に貢献していきます。



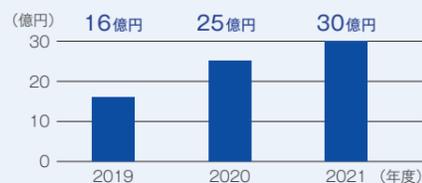
超低温フリーザー Vitalシリーズ
冷凍回路が二つあるため、片側の冷凍回路にトラブルが生じて、もう一方の冷凍回路が運転し、保管物の損失リスクを回避することが可能。
(デュアル冷却方式)
※FMD-D350ESH (写真の製品) は業界初のノンフロン冷媒・単相100V
※一部対応外機種もあり。

TOPICS × SUSTAINABLE

ガリレイの開発力を活かした ノンフロン冷媒の製品をリリース

医療・理化学分野においても、脱炭素化に向けた取り組みは加速しています。その中で、FMS事業では、2021年12月に超低温フリーザー「Vitalシリーズ」、2022年9月に薬用保冷庫「MediFridgeシリーズ」といったノンフロン仕様の製品を新たに発表しました。人々の生命・健康と地球環境の両面において持続可能な社会の実現に向けて貢献していきます。

事業部実績販売高



※フクシマガリレイ医療理化学製品販売および関連工事施工、プレハブ庫等を含む

主要なエンドユーザー

- ・医療施設 (病院、クリニック、調剤薬局)
- ・大学／官庁 (研究機関)
- ・民間企業 (食品、製薬、再生医療等)

主要販売品目

- ・低温インキュベーター
- ・薬用保冷庫／ショーケース
- ・超低温フリーザー
- ・メディカルフリーザー



ノンフロン薬用保冷庫
MediFridgeシリーズ
FMS-125GS



サービス事業

SERVICE OPERATIONS

デジタルと技術の両側面から
メンテナンスの質を高める

ユーザーに寄り添い、メンテナンスや定期点検などの保守を通じて現場の安心を守り続けます。DXを推進させ、さらに進化したサービスを追求しています。

2021年度レビュー

製品の販売拡大に伴い、 業績は好調に推移

2021年度は前年度を上回る売上で、順調に業績を伸ばした1年でした。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、外食産業等の冷蔵庫メンテナンスの需要は減少した一方で、スーパーマーケットやドラッグストアを中心としたショーケースの販売拡大に伴うメンテナンス売上が増加しました。さらに、コンビニエンスストアを中心とした保守契約の増加により業績が好調に推移しました。営業・サービスが一体となり、販売からメンテナンスまで一貫して担うことができる当社の強みが発揮された1年でした。

事業の強みと今後の展望

DXのさらなる推進と メンテナンス品質の向上

自社で質の高いサービスマンを確保し、全国各地の拠点から、迅速かつ的確にメンテナンス対応できることは当社の大きな強みです。DXも積極的に推進しており、サービスの現場とコールセンターの連携により、運用効率化を進めています。また、人材育成においてはガリレイアカデミーが2022年に新設されました。メンテナンス品質の向上と均一化で、エリアナンバーワンを目指します。さらに、『環境アクション2030』で掲げている「冷媒漏れ10年保証」は、サービス事業において最も重要なミッションの一つです。安心してガリレイの製品をご使用いただき、かつ、環境保全に貢献できるよう、一丸となって取り組んでいきます。

TOPICS × DIGITAL

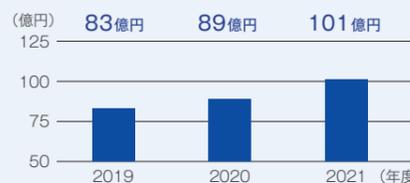
「G-Compass」の本格始動で 「Zero Call Company」の実現へ

3年前から構想を進めていた「G-Compass」がいよいよ本格的に始動します。本システムでは、稼働状況監視システム「Sネット24」とサービス手配システムが連携しており、対象機器の状態を24時間体制でデータ管理し、万が一異常が発生した場合には、自動的に当社へ修理の手配が行われます。より早く、正確でスムーズなメンテナンスを提供できるよう、着実にDXを推進していきます。



ガリレイアカデミー

製品・サービス別売上高



主要なエンドユーザー

- ・当社製品ユーザー

主要販売品目

- ・修理
- ・保守／メンテナンス

拠点数

- ・全国73拠点 (フクシマガリレイ単体)

人員数

- ・638名
(フクシマガリレイ単体 工事・サービス人員数 2022年3月末時点)
(2019年3月末比 63名増)



スマート診断により「Zero Call Company」を実現



エンジニアリング事業

ENGINEERING OPERATIONS

グループシナジーを最大限に活かし
より良い未来を創造する

多種多様な製品群のノウハウや技術を応用展開することにより、メーカーだからこそ可能なエンジニアリングを実現。
お客様のお役に立ち、社会に貢献できるエンジニアリングを目指しています。

2021年度レビュー

コロナ禍で延期されていた案件が 一斉に動き始めた1年

2021年度はコロナ禍の影響で延期となっていた設備投資が動き出し、コンビニエンスストアが冷凍食品の製造に乗り出すなど、冷凍工場の案件が増えました。スーパーマーケット業界においては人手不足解消に向け、通常は店舗で行われる仕入れ・加工・配送を一括して行うプロセスセンターの建設が進んでいます。また、物流については、海外では普及している生鮮EC（ネットスーパー）の物流センターが日本でも本格的に移動。この分野は、今後さらに好況となる見込みです。その他、老朽化した施設の増加、フロンガス規制による機器の更新、改修工事も増えており、こうした案件にグループで対応することで、売上が伸びました。

TOPICS × HUMAN RESOURCES

完成イメージの具体化に向け、 3DCADの導入を推進

エンジニアリング事業では、営業・設計どちらの人材もCADを使って図面を作成することができます。特に設計では3DCADの標準化を推進しており、お客様がより具体的に物件の完成をイメージできるように取り組みを進めています。

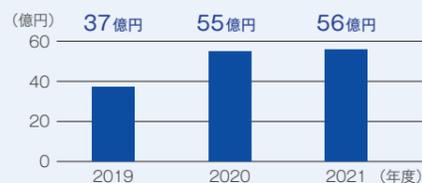
事業の強みと今後の展望

冷凍冷蔵設備にとどまらず、 工場全体をプランニングする組織へ

ガリレイグループは、小規模のプレハブ型冷凍冷蔵設備から食品工場といった大型案件まで設備プランニングを行えることが強みです。その中で、エンジニアリング事業では主に冷凍冷蔵設備工事を担っていますが、大手企業を中心に環境配慮が特に重視されるいま、当社では自然冷媒を使用した冷凍機の積極的な提案と施工案件の強化に取り組んでいます。一方、今後の成長に向けては、工場全体のエンジニアリングをテーマとし、冷やすだけにとどまらず、「空調設備」や「衛生設備」を含めたフォローアップや、グループシナジーを活かした「生産設備」のエンジニアリングを伸ばさせていくことを目指しています。



事業規模売上高



※フクシマガリレイ エンジニアリング案件販売実績

主要なエンドユーザー

- ・食品工場
- ・コンビニエンスストア
- ・プロセスセンター
- ・医薬品倉庫
- ・低温物流倉庫

主要販売品目

- ・設備プランニング
(冷凍冷蔵設備・断熱パネル・生産設備・搬送コンベア・管理システム)

GALILEI BASE
<https://www.galilei.co.jp/galileibase/>
 ガリレイグループのエンジニアリングに関する情報を集約したサイト「GALILEI BASE」で詳細をご確認いただけます。






ガリレイパネルクリエイイト株式会社

GALILEI PANEL CREATE CO. LTD.

パネル技術と設計施工技術を駆使した
最適なパネルソリューションを

多彩な高機能断熱パネル、独自の設計施工技術を活用し、「冷凍冷蔵空間」「清浄（非冷蔵）作業空間」を実現しています。

2021年度レビュー

大型案件が再始動。 バックヤードでのパネル活用も活況に

2021年度は、前年度、東京五輪関連準備やコロナ禍の影響で延期・ストップしていた建築案件が一気に再スタートし、食品工場や半導体工場、医薬品関連などの案件が、数多くありました。また、コロナ禍によりスーパーマーケットやドラッグストアのバックヤードの冷凍・冷蔵空間の設備投資が活況になり、結果、ガリレイパネルクリエイイト単体で前年比133%のV字回復を達成しました。2021年秋頃からの材料費の高騰は収益面で大きく影響を及ぼしましたが、価格改定だけでなく、配送および工事施工の効率向上によるコスト削減に努め、お客様の負担をできる限り軽減していきます。

TOPICS × SUSTAINABLE

ノンフロン・省エネ製品の強化により、 サステナブルな環境づくりに貢献

2019年度より、ノンフロン断熱パネルシリーズ「econeal（エコネア）」の販売に尽力してきました。2022年秋には、シンプルな工程で工期短縮が実現でき、厚さ44mmの断熱パネルで高い省エネ性能を発揮する「LEDライン照明付きパネル天井」をリリースし、環境負荷のさらなる低減に貢献します。

事業の強みと今後の展望

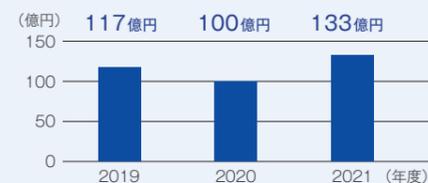
一貫受注できる体制を強みに さまざまなマーケットに販路を見出す

パネルの設計、製造から施工に至るまで、一貫した体制で請け負えること、さらにガリレイグループ全体で冷蔵設備工事を含まれたトータルコーディネートができることが、当社の強みです。現在、取り組みを強化している市場の一つにクリーンルーム市場があります。生産増強が急がれる半導体の分野ではその生産設備の増強が増えており、継続した需要が見込まれます。また、この数年増えている大型案件のコンビニエンスストアや食品工場、プロセスセンター、医薬品関連等の案件にグループシナジー、既存販路、新規販路の多方向で注力していきます。工期短縮や省エネに貢献し、オフィスエリアでも使用可能な新製品の「LEDライン照明付きパネル天井」、環境にやさしいノンフロン断熱パネルシリーズ「econeal（エコネア）」などを武器に、それぞれの市場に対応した提案を行っていきます。



LEDライン照明付きパネル天井

子会社単体売上高



主要なエンドユーザー

- ・食品工場
- ・半導体工場
- ・コンビニエンスストア
- ・医薬品メーカー
- ・プロセスセンター
- ・植物工場
- ・医薬品倉庫
- ・低温物流倉庫

主要販売品目

- ・プレハブ冷凍・冷蔵庫
- ・クリーンルーム（食品・研究・医薬）
- ・扉（スライド・開き等）



econeal
 Eco + Connect + Earth
 Eco — 環境に配慮したパネルで
 Connect — お客様とガリレイグループ
 お客様のお客さままで
 みんなをつないで
 Earth — 環境と大地・地球を結ぶ

econealシリーズ



タカハシガリレイ株式会社

TAKAHASHI GALILEI CO. LTD.

一步先を見据えた製品開発で
次の未来を創造する

急速冷却・凍結装置トンネルフリーザー[®]のパイオニアとして、国内トップシェアの実績。お客様と冷却・凍結テストを行い、緻密で正確なデータを採取し設計へ反映させることで、世界に一つしかないオーダーメイドのフリーザーを創りだします。

2021年度レビュー

冷凍冷蔵食品需要が高まり、 過去最高の売上を達成

2020年度のコロナ禍における投資抑制から一転し、2021年度は過去最高売上を達成しました。外食からテイクアウトやデリバリーへの食品流通の変化に伴い、冷凍食品の需要の高まりがトンネルフリーザー[®]を始めとした設備投資を大きく後押ししたことが考えられます。しかし、この需要が今後も続くとは考え難い状況の中で、これから目指す姿はフリーザーの分野で1位になることです。これまで主力としてきたトンネルフリーザー[®]だけでなく、さらなる需要が見込めるスパイラルフリーザーやアルコールフリーザーを積極的に提案できる体制を整え、より広いニーズに応えられる企業を目指します。

TOPICS × SUSTAINABLE

自然冷媒をキーに 環境負荷、食品ロスの低減を追求

自然冷媒需要の高まりを受け、2022年秋から販売を開始するCO₂冷凍機「NOBRAC」をベースとした取り組みを強化しています。環境負荷を低減しながら、いかに賞味期限を延ばし、フードロスを減らせるかを追求していきます。

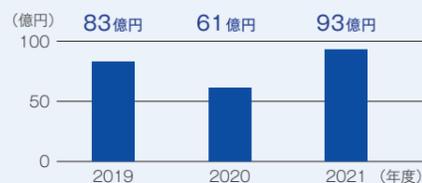
事業の強みと今後の展望

知識と技術を活かした ソリューション型のビジネス展開

当社は以前からソリューション型のビジネスモデルを築いてきました。その起点となるのが食材テストで、お客様が食材を持ち込み、凍結試験のデータを収集した上で、最適な凍結技術や機器を提案するスタイルを確立しています。2019年にガリレイグループ本社ビル内にMILABが完成したことにより、一層環境は充実しました。またコロナ禍を背景とした食品冷凍技術への関心から、当社がこれまで蓄積してきた知見に注目が集まっています。今後もフリーザー周辺機器を含めたトータルエンジニアリング力を強化し、冷凍冷蔵設備全般への事業領域の拡大を継続します。また、海外に向けては、今後環境対応への取り組みが進むと見込まれる東南アジアにおいて、当社がリードしていけるよう取り組んでいきます。



子会社単体売上高



主要なエンドユーザー

- ・食品メーカー
- ・コンビニエンスストア
- ・畜産水産加工会社

主要販売品目

- ・トンネルフリーザー[®]
- ・スパイラルフリーザー
- ・アルコール凍結機
- ・エンジニアリング (冷凍設備・ライン)



LSHOCK[®]アルコールバッチ式急速凍結装置
-30℃のアルコールラインに浸漬し急速凍結。
バッチ式で少量多品種にも対応。



スパイラルフリーザー
面積当たりの生産量No.1。
大量生産向けのフリーザー



ショウケンガリレイ株式会社

SHOKEN GALILEI CO. LTD.

お客様にとって最適な生産ラインを
一気通貫で構築する

生産ラインにおける自動化・省人化・省力化装置からラインエンジニアリングまで、生産性向上を実現する機械設備を研究・開発し、理想の生産ラインをトータルプロデュースします。

2021年度レビュー

設備投資抑制で厳しい局面も、 期末は大型案件急増

2021年度のスタートはコロナ禍の影響もあり改造・整備・更新等に留まる案件が大半を占め、新設・増設の案件の動きも鈍化したことで厳しい業績となりました。しかし、2021年12月頃から状況は一転し、冷凍食品の需要増と同時に、大型投資案件が非常に活発化しました。また、多くの工場で人材不足が課題となっており、安定した生産に向けて自動化・省人化の相談も増加しています。当社は2023年春には新工場の完成を予定しており、そこでは自動化・省人化設備を検証するテスト環境の整備も構想中です。この環境を活用しながら、これまで以上に踏み込んだ提案で、一体感をもってお客様との取り組みを加速していきます。

TOPICS × SUSTAINABLE

自動化・省人化・省力化を追求し、 持続可能な生産環境の実現へ

お客様の生産環境の安定稼働と生産性向上という事業目的、また、現在注力している自動化・省人化・省力化のソリューションは、これからの労働人口減少社会におけるSDGsの考え方そのものに通じます。また、フードロス低減という点では社会全体の環境にも貢献しており、今後も世の中に必要とされる技術開発が使命であると考えています。

事業の強みと今後の展望

グループシナジーの強化と、 携わる領域の拡大へ

工場生産ラインにおける搬送設備の設計・製造を担っているため、グループシナジーの効果は特に大きく、中でも協業できるフィールドが広いタカハシガリレイとの連携は今後ますます重要になると考えています。また、当社が関わる「搬送」の領域をいかに拡大するかという視点も今後の成長に欠かせないテーマの一つです。特に包装工程において生産性向上に貢献する「ロボットSler (システムインテグレータ)」としての成長を掲げており、従来の搬送機器や機械装置の枠を超えて、より広範な生産工程の課題を解決できる企業へのステージアップに挑戦してまいります。

子会社単体売上高



主要な納品先

- ・食品工場
- ・日用品その他、ラインシステムを使用する工場

主要販売品目

- ・コンベヤ各種
- ・自動化装置各種
- ・ロボット組込装置
- ・ラインシステム一式



段積み・段バラシ装置
力作業であるトレーやコンテナの段積み・
段バラシ工程を自動で行い、重労働であ
る工程を省人化。現在使用しているトレー
を変更せずに使用が可能。



各種ロボット
食品工場の人手不足対策にロボット導入が増加。
製造ラインに合った最適なロボットのレイアウト
構想から据付導入までトータル提案が可能。



海外事業

FOREIGN OPERATION

Japan Qualityの製品・サービスで
アジア諸国に食の安心と安全を

中国・東南アジア11の国と地域に拠点を置き、Japan Qualityへの信頼を武器に、
日系企業の海外進出サポートや現地顧客への製品販売を展開しています。

2021年度レビュー

コロナ禍の影響を受けながらも 見えてきた業績回復の兆し

2021年度は、複数の国でロックダウンがあり、案件の延期や中止、
投資控えの影響を受け、各国の販売会社の中でも業績の好・不調が
分かれる結果でした。タイ工場では製品の生産台数が2020年度の
約2倍となり、過去最高の推移となりました。要因としては、日本製
からの切り替えに加え、冷凍機内蔵型ショーケース、冷蔵リーチイン
ショーケースがラインナップされたこと、新規顧客開拓、代理店開
拓が進んだことなどがあげられます。2022年度は各国で経済優先
の政策となり、アジア進出を推進する外食チェーンやスーパーマー
ケットの投資意欲も回復していると実感しています。

事業の強みと今後の展望

日本ならではの品質で、 ローカルメーカーと差別化を図る

当事業の強みは、Japan Qualityを海外のお客様に提供できる
ことです。製品の品質の高さに加えて、日々の営業活動において
も日本品質でお客様に寄り添い、ローカルメーカーとの差別化を
図った販売を推進しています。また、店舗設計・施工管理・メンテ
ナンスを一貫して提供できるガリレイグループの力と、その蓄積
されたノウハウは、国内だけでなく、海外においても大きな強み
です。近年は、大型案件の受注も増加傾向にあります。今後は、
まず販売会社それぞれの売上を確実に底上げし、さらに、第三国
進出や事業提携なども積極的に進めることで、海外での事業拡
大をめざします。



タイ工場製 MEシリーズ
INVERTER PLUG-IN type MULTI-DECK
OPEN SPOT SHOWCASE

TOPICS × GLOBAL

海外輸出拡大に向け、 国際認証の取得へ

製造本部と連携して、アメリカ、ヨーロッパ、中国に向けた輸出製品の国際認証の取
得 (CE、UL、CCC 認証など) を進めています。国際認証を取得することで販売の自
由度を高め、本格的に海外輸出の拡大を図っていきます。

海外子会社売上高 (単純合算)



主要販売品目

- ・業務用冷凍冷蔵庫
- ・冷凍冷蔵ショーケース
- ・トンネルフリーザー
- ・プレハブ冷凍・冷蔵庫

拠点数

- ・11の国と地域
- ・タイ工場

人員数

135名
(2019年3月末比 25名増 (北京工場除く))

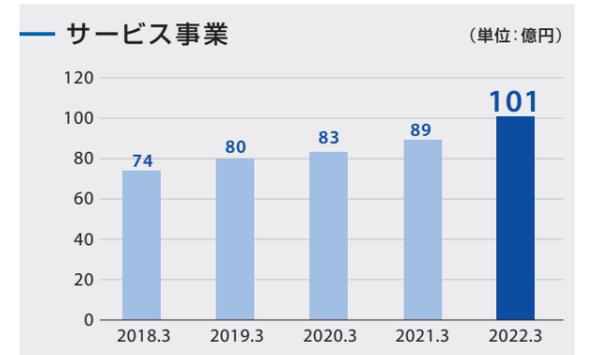
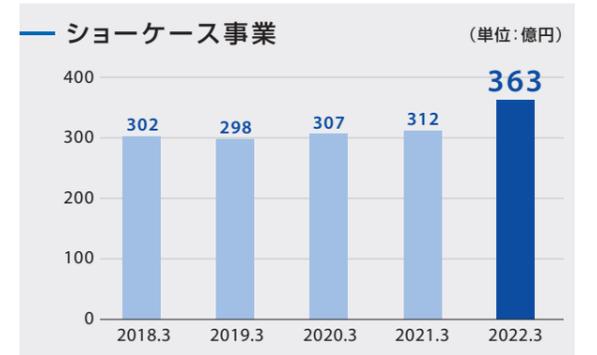


タイ工場製 UEシリーズ
PLUG-IN type GLASS DOOR CABINET

事業別の売上高推移

DIVISIONAL SALES

※決算説明資料等の売上区分で表記



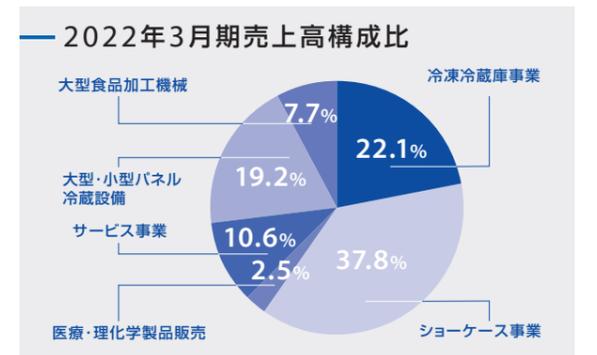
※大型・小型パネル冷蔵設備は、主にエンジニアリング事業とガリレイパ
ネルクリエイトの売上高の合計です。



※大型食品加工機械は、主にタカハシガリレイ (サービスを除く) とショウ
ケンガリレイの売上高の合計です。



※海外事業の売上高は、冷凍冷蔵庫事業及びショーケース事業の売上高
に含まれます。



サステナビリティへの取り組み

ENVIRONMENT

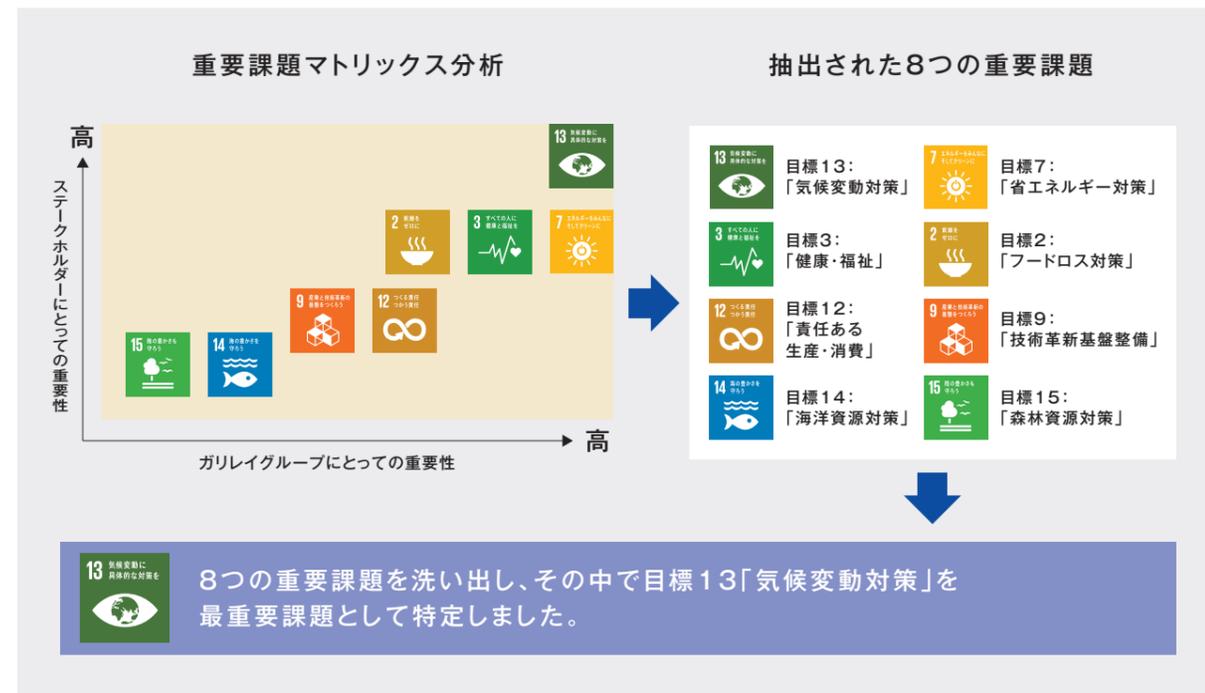
マテリアリティの抽出

ガリレイグループは、「持続可能な開発目標(SDGs)」の趣旨に賛同し、2019年「ガリレイグループSDGs宣言」として「生活者の食生活品質の向上を」「地球環境にもっとやさしく」を宣言しました。

▶ 参照：P.14「価値創造モデル」ガリレイグループSDGs宣言

さらに、抽出された8つの重要課題のうち、事業の継続性への影響度の高さおよびパーパスに掲げる地球の「いのち」を守る観点から、目標13「気候変動対策」を最重要課題として特定しました。「ガリレイグループSDGs宣言」の「地球環境にもっとやさしく」を具体化し、目標およびアクションを定めたものが、サステナブルビジョン『Dramatic Future 2050』です。

ガリレイグループにとってのSDGs(開発目標)の重点テーマ



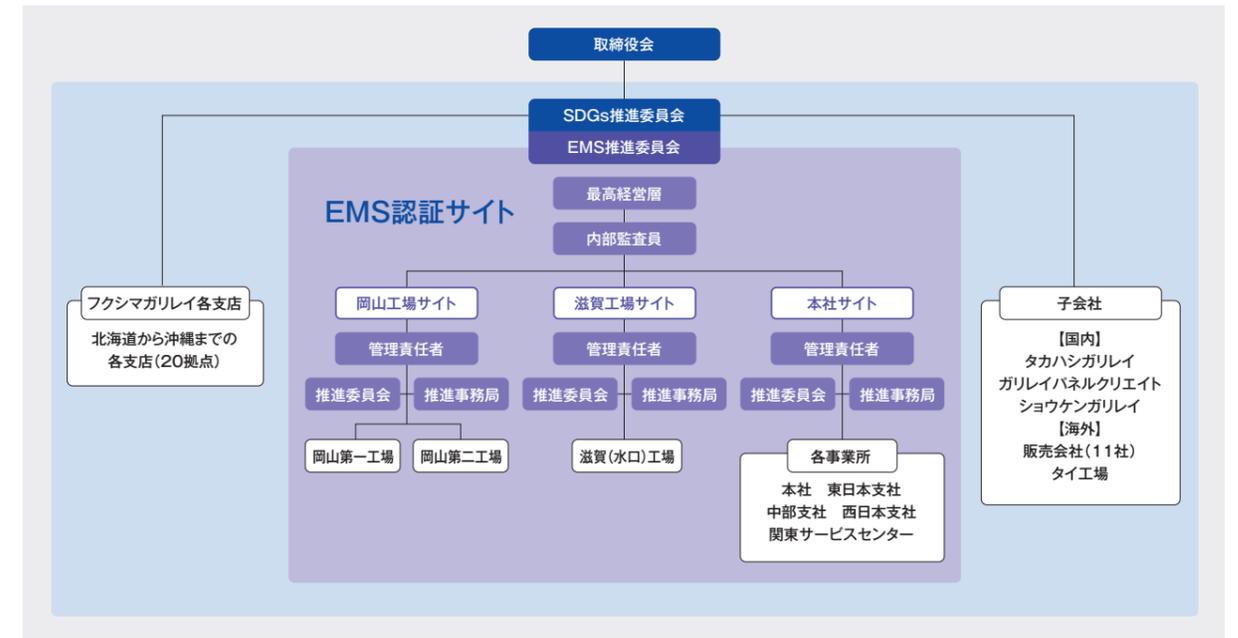
TCFD開示推奨項目への取り組み状況

気候変動に対するアクションを全社的に推進すると同時に、その効果を測定し説明するため、TCFDフレームワークに基づく気候変動に関する情報開示の質と量の充実を図っていきます。

ガバナンス

ガリレイグループ全体でサステナブルビジョン『Dramatic Future 2050』に沿った運営を行うため、EMS推進委員会を包含する組織として2021年6月にSDGs推進委員会を新設しました。これにより、従来のEMS活動では対象外であったフクシマガリレイの支店・営業所および国内外の子会社も対象となります。SDGs推進委員会は、委員長は代表取締役 福島 豪、メンバーは事業部門長、製造・開発部門長および関連部門のスタッフで構成しています。委員会は四半期に一度開催し、全社の進捗状況を確認しレビューを行います。本体制をもって、気候変動に対しても全社的なアクションを推進するとともに、温室効果ガスの排出量をはじめとする指標の実績を測定し、目標達成に取り組んでいきます。

サステナビリティ推進体制



戦略

ガリレイグループは、気候変動が社会および当社事業に与える影響を重大なものとして捉え、対策として、『環境アクション2030』に掲げる「グリーン冷媒への転換」「冷媒ガス漏洩防止」「環境性能の高い製品を開発・提供」「CO₂排出量削減」に取り組んでいます。今後、TCFDの分類(移行リスク・物理的リスク)を踏まえ、気候変動に関するリスク・機会を事業ごとにより具体化していきます。

環境アクション2030



リスク管理

リスク管理委員会を設置し、気候変動関連のリスクを含む全社リスクを、発生頻度と影響度により重要性を評価し、リスク管理を実施しています。

▶ 参照：P.38「コーポレート・ガバナンス」コーポレート・ガバナンス体制

指標と目標

2021年に取締役会で決議されたサステナブルビジョン『Dramatic Future 2050』において、2050年および2030年時点での温室効果ガス排出量削減の目標、環境に関するアクションと指標を定めています。

**2050年までにグループ全体での温室効果ガスの排出量実質ゼロ
2030年CO₂排出量50%削減(グループ全体2013年度比)**

▶ 参照：P.27-28「Dramatic Future 2050」、P.29-30「環境アクション2030」

CO₂排出量(およそScope1およびScope2に相当する範囲)の2021年度実績はP.30「CO₂排出量削減」に記載の通りです。今後、精度の向上およびScope3の算定に取り組んでいきます。

Dramatic Future 2050

誰もがワクワクする未来を拓く、ガリレイグループ

わたしたちが目指すサステナビリティは、生産からテーブルに並ぶまで
温室効果ガスの排出を実質ゼロにすること。

食といのちの未来のために、何があっても挑戦し続けます。

それが必ず、誰もがワクワクする未来を
拓くと信じているからです。

2051年 **100th**

2050年

環境ビジョン2050

環境
Vision
2050

持続可能な地球環境を次世代に引き渡すことを目的に、
2050年までの「カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現」に向け、
「環境ビジョン2050」を掲げます。

- 1 グループ全体で
温室効果ガスからの脱却を
- 2 冷媒をはじめ、
クールな技術で地球温暖化をゼロに
- 3 環境と真剣に向き合う
お客さまから選ばれる存在に

2030年

環境アクション2030

環境
Action
2030

2030年までのSDGs「13.気候変動に具体的な対策を」への取り組みを柱とし、
環境先進企業として、ステークホルダーからの期待、
社会に対して果たす責任を達成するため「環境アクション2030」を策定します。



グリーン冷媒への転換

低GWP冷媒、自然冷媒への転換を通じ、
温室効果ガス低減に取り組み、
地球温暖化防止に貢献します。

**環境性能の高い製品を
開発・提供**

製品のライフサイクルにおいて
より環境負荷の少ない製品へ移行します。

冷媒ガス漏洩防止

ITを駆使したサービタイゼーションによる
プレメンテナンスの拡充により、
冷媒漏れ10年保証を目指します。

CO₂排出量削減

最新の省エネ技術の積極導入や
再生可能エネルギーの活用などを通じ、
バリューチェーン全体でのCO₂排出量削減に貢献します。

2021年 『Dramatic Future 2050』の策定

10TH ANNIVERSARY **Dramatic Future 2050**

環境 Action 2030

ガリレイグループが『環境アクション2030』として掲げる4項目の具体的な活動内容および進捗についてご説明いたします。

グリーン冷媒への転換

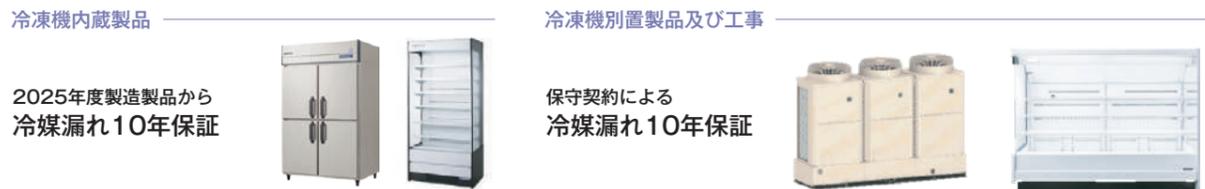
2025年の新規製品・新規設備へ使用する冷媒はグリーン冷媒(低GWP冷媒、ノンフロン冷媒)への転換を通じ、温室効果ガス低減に取り組み、地球温暖化防止に貢献します。

2025年中間目標



冷媒ガス漏洩防止

2025年度製品・施工物件より冷媒漏洩による地球温暖化ゼロを目指します。また、プレメンテナンスの拡充により、冷媒漏れ10年保証を目指します。



具体的な取り組み

- | 製造時の対策 | 施工時の対策 | 保守時の対策 |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ●溶接レス又は溶接点数の削減 ●検査新技術の導入 ●材料劣化防止対策の拡充 | <ul style="list-style-type: none"> ●工事のDX活用 | <ul style="list-style-type: none"> ●DX活用による予防保全 |

「直す」から「止めない」に
スタイルチェンジ

環境性能の高い製品を開発・提供

製品のライフサイクルにおいて環境性能の高い製品を提供しCO₂削減に取り組み、より環境負荷の少ない製品へ移行します。



LCA(Life Cycle Assessment) = 原料採掘から製品使用、廃棄まで全ての工程で排出されるCO₂の合計を数値化

環境負荷の少ない製品への移行



CO₂排出量削減

グループ全体で2030年までにCO₂排出量50%削減(2013年度比)を目指します。



岡山工場、滋賀(水口)工場に太陽光発電設備を導入



お客様との協働により、エネマネ事業、ZEB化の推進を通して、バリューチェーン全体のCO₂排出量削減に取り組みます。

全国のスーパーマーケット22,500店のうち
約30%が当社製ショーケースを使用

年間223万トンのCO₂排出量に相当

46%削減 に向かって取り組みます

※日本政府のCO₂排出量削減目標に歩調を合わせて取り組みを推進



環境方針・環境実績

ENVIRONMENT

環境基本理念

フクシマガリレイは、地球環境にやさしい事業活動を重要な経営課題のひとつとして認識し、環境への影響を配慮した取り組みを継続的かつ積極的に推進します。幸せ創造活動の一環として「ECO-tech」を軸に、環境にやさしい製品・システム・サービスを提供する「エコ・パートナー」を目指します。

環境基本方針

- 1 業務用冷凍・冷蔵庫、ショーケース、プレハブ庫、その他の関連機器及びシステムの製造・販売・工事・メンテナンス、店舗システムを提供するにあたり、お客様の環境負荷を低減する製品及びサービスの提供・提案を行います。
- 2 事業活動が環境に与える影響を的確に把握し、環境保護に努めるとともに、環境管理システムの継続的改善を図ります。
- 3 法規制、条例、当社が所属する業界団体・地域社会の取り組みや自主的に受入を決めたその他の要求事項を遵守し、環境管理に努めます。
- 4 事業活動によって生じる環境影響のうち、下記に示す項目を重点テーマとして改善に取り組みます。
 - 1. 環境に配慮した製品・システムの積極的な販売
 - 2. フロンが環境に与える影響の低減
 - 3. 廃棄物の排出量削減
 - 4. エネルギー使用量削減
 - 5. 素材・消耗材の使用量削減
- 5 環境目標の設定を行い、実行計画を作成し、実施します。またこれらを定期的に見直し、必要に応じて改訂を行います。
- 6 環境管理システムの文書化を行い、この内容にそって運用し環境管理システムの維持管理を行っていきます。
- 7 全従業員に環境基本方針の内容を周知徹底させるとともに、教育によって環境保護の重要性への意識向上に努めます。また、グループ会社、納入・仕入・協力会社等にも当社の環境基本方針及び取り組みの周知を図り、理解と協力を求めます。

▶ 参照：P.26「サステナビリティ推進体制」EMS認証サイト

EMS推進体制

環境監査

EMSが有効に機能しているかを確認するため、内部監査を年1回、外部認証機関による外部審査を年1回実施しています。2021年度は内部監査員の知識・技量の向上を図るため、外部講師による内部監査員講習を実施しました。それに伴い、内部監査員の登録者は56人から126人へと増員しました。

推進委員会

各サイトには、EMS管理責任者の下にEMS推進委員会が設けられており、定期的な会合・目標の策定・進捗と見直しなど、さまざまな情報交換が行われています。人数は2021年度実績で、本社サイトで33人、滋賀(水口)工場サイトは20人、岡山工場サイトは18人で運営、2022年度は本社サイトは36人、滋賀(水口)工場サイトは24人、岡山工場サイトは20人で運営していきます。

環境教育

年間教育計画表をもとに年1回、全従業員(一般社員・パート・派遣社員・請負業者)に向けた環境教育を実施しています。当社にとって最も関りの深い環境活動であるフロン回収作業については、独自の認定基準を設け、認定登録者による回収作業を徹底。フロン回収技術者には、毎年緊急時の対応訓練を実施するなど、能力の強化を図っています。

環境保全の目標・実績評価 本社・東日本支社・中部支社・西日本支社

【目標達成率】◎=100% ○=80%以上 △=80%未満

環境方針	環境目的	目標(行動の内容)	2021年度実績	評価
I. 生活者の食生活品質の向上を	①食の安全・安心の追求	製品の拡販(目標:販売予算 総台数)	実施率130%	◎
		安全・安心契約、システムの開発・提供(MILDE、HACCPマスター、Bemsの提案)	実施率100%	◎
	②フードロスの低減	上記項目の販促ツールの作成・情報提供	実施率100%	◎
		長持ちビジネスの推進・提案(プラスチックラ、急速凍結庫、冷凍ロッカー)	実施率147%	◎
II. 地球環境にもっと優しく	①気候変動への適応と緩和	省エネシステムの開発・提供	実施率100%	◎
		ガス補充件数・充填量・有償無償金額の把握	実施率100%	◎
		冷媒回収量・破壊量の記録の徹底	実施率100%	◎
		無駄な電力の削減(照明消灯、フィルター清掃、簡易点検等)	実施率100%	◎
	②持続可能な地域環境への貢献	省エネ製品の拡販(目標:販売予算 総台数)	実施率115%	◎
III. 法規制の遵守徹底(環境法、条例、業界の取り決めの順守)	①法令順守	環境関連法規制の情報開示	実施率100%	◎
		36協定の順守(業務改善ミーティングの実施、残業時間の確認)	実施率 97%	○
		適合性のチェックの徹底	実施率100%	◎
IV. 社員の教育	①教育訓練の実施/社会貢献活動の実施	教育訓練の実施	実施率131%	◎
		近隣清掃の実施	実施率100%	◎

環境保全の目標・実績評価 滋賀(水口)工場

【目標達成率】◎=100% ○=80%以上 △=80%未満

環境方針	環境目的	目標(行動の内容)	2021年度実績	評価
地球温暖化防止(CO ₂ 排出量の削減)	製品の省電力化により省エネな製品の開発、新規開発製品・改良品により開発段階における新旧製品・部品に対してCO ₂ 換算を行い、改良・改善によりCO ₂ 排出量を削減する	新規開発・部品図作成段階・性能段階においてCO ₂ 換算し、CO ₂ 排出量2020年度比10%削減を目標とする。また、性能試験に用いる試験棟の電力使用量についても、2020年度比2.0%削減する	冷媒転換R-448A採用化/モデルチェンジ・CO ₂ 排出量換算2020年度比 38.3%減	◎
		温室効果ガスの排出量を2020年度比2.0%削減する	・試験棟電力使用量 2020年度比 17.2%減	◎
		工場の時間付加価値を2020年度比105%にする	2020年度比 18.6%減	◎
		電力使用量(昨対2.0%削減)	時間あたり製造仕切 2020年度比4.0%アップ	○
	都市ガス使用量(昨対2.0%削減)	時間あたり付加価値 2020年度比3.0%ダウン	○	
資源の有効活用	素材・消耗材の使用量を削減する	2020年度比 2.0%減	◎	
		2020年度比 16.2%減	◎	
産業廃棄物の削減と適正処置	産業廃棄物の排出量(昨対2.0%削減)	2020年度比 5.5%減	◎	
	特別管理産業廃棄物の排出量(昨対2.0%削減)	2020年度比 7.4%減	◎	
		2020年度比 82.7%減	◎	

環境保全の目標・実績評価 岡山工場

【目標達成率】◎=100% ○=80%以上 △=80%未満

環境方針	環境目的	目標(行動の内容)	2021年度実績	評価
フロンが与える環境影響低減	冷媒回収の徹底	チェックシートによる回収記録の実施	実施率100%	◎
	フロン排出量抑制	フロン排出抑制法の順守 フロン使用機器の管理・定期点検	実施率100%	◎
地球温暖化防止(CO ₂ 排出量の削減)	温室効果ガスの排出量を削減する	温室効果ガスの排出量を2020年度比5%削減する	2020年度比 2.8%減	△
		生産性向上により電力使用量を2020年度比5%削減	2020年度比 7.0%増	△
		LPG消費量を2020年度比5%削減	2020年度比 6.7%増	△
資源の有効活用	素材・消耗材の使用量削減	コピー用紙の購入量を2020年度比3%削減する	2020年度比 8.2%増	△
産業廃棄物の削減と適正処置	産業廃棄物の排出量削減	産業廃棄物の排出量を2020年度比5%削減する	2020年度比 12.9%増	△

社会貢献

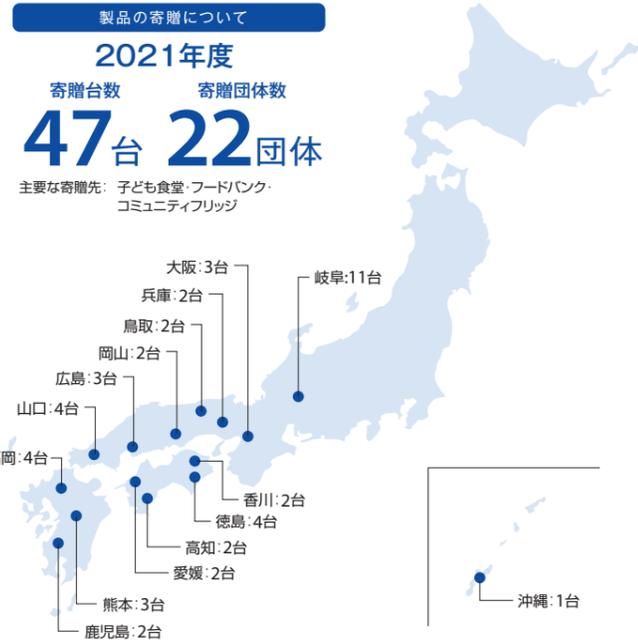
SOCIAL CONTRIBUTION

ガリレイ1%クラブ

継続的な社会貢献活動に
ガリレイグループ全員で取り組む

継続的に社会貢献活動を行っていくために、税抜き前利益の約1%を社会貢献活動のために活用する「ガリレイ1%クラブ」を2021年に発足しました。グループ全員が積極的にボランティア活動に関わる「社員参加型」の社会貢献活動です。広く社内から応募を募り、社員が自主的に参加できるような活動を行っています。主に、冷凍・冷蔵庫の寄贈及びボランティア活動が中心となっており、2021年度は22団体に47台の冷凍・冷蔵庫を寄贈しました。

引き続き、ガリレイグループらしい「食」や「いのち」に関わる社会貢献活動のアイデアをグループ全社から募集し、積極的に取り組んでいきます。



取り組み事例 1

本願寺津村別院
北御堂フードバンク様



子ども食堂等の食材保管を行っている「北御堂フードバンク」として活動されています。食材を保管する冷凍・冷蔵庫が足りず困っておられた北御堂様に冷凍・冷蔵庫を寄贈しました。

取り組み事例 2

フードバンクかながわ様



事業者からの食材寄贈をもとに、子ども食堂の運営、生活に困窮している学生の支援、ひとり親世帯に対する支援などを行っている「フードバンクかながわ」様に食材保管用冷凍庫を寄贈しました。

VOICE

ボランティア参加者の声

- ・個人や会社・団体等から寄贈された食品の仕分け作業を行いました。受け取る方の顔を見て状況を確認する機会を増やすため、小分けにして配布されているとのことでした。今後も機会があれば、ぜひまたお手伝いしたいと思います。
- ・地域のために限られたスペースの中、最大限に活動されている現場で、製品が役立っていると実感できました。
- ・普段直接お客様と会う機会がありませんでしたが、今回のようにボランティアを通して直接お手伝いできたことで、製品をより身近に感じられました。

ウクライナ支援

グループ全体で募金活動を実施
国連関連団体を通じて寄付

ウクライナ及びその周辺地域で被災された方々への人道的支援のため、募金活動を実施しグループ各社の従業員から寄せられた寄付金に各社からの寄付金を加えて国連WFP協会に寄付を行いました。

ウクライナ支援について
グループ全体での寄付金額 約**591**万円



キッズニア甲子園

“冷える仕組み”を学び、機械の修理・点検を実体験
子どもと保護者で深める「食」への興味関心

子どもの職業・社会体験施設「キッズニア甲子園」(兵庫県西宮市)に2015年から「冷蔵サポートセンター」のパビリオンを出展しています。スーパーマーケットやコンビニエンスストアに並ぶショーケースの“冷える仕組み”を学び、普段口にする食の安全・安心がどのように守られているのかを、修理・点検の仕方や管理モニターの確認作業を通して体験できます。訪れた子どもとその保護者に、縁の下の力持ちとして社会に役立っているフクシマガリレイの製品を通じて、食への興味関心、仕事の大切さを伝えています。

キッズニア甲子園について
2021年度 パビリオン体験者数 **7,413**名



TOPICS

津波や河川氾濫など緊急時の「避難場所」となる本社ビル

本社ビルの周辺地域は、大規模地震が発生した際の、津波や河川氾濫による浸水被害の可能性が高いエリアです。万が一の場合に備え、地上8階建ての社屋は、災害時に近隣住民の方々に一時開放する「緊急避難場所」として大阪市から認定を受けています。屋上に非常用発電機を設置しており、緊急時・停電時には8階の食堂を稼働させ、避難された住民の方々に必要な食糧などを供給することが可能です。

TOPICS

本社ビルで地域の方々と淀川花火大会を鑑賞

3年ぶりの開催となったなにわ淀川花火大会の鑑賞会を本社ビルで実施いたしました。本社近隣の竹島地区子ども会の方を招待し、お子様、保護者の方合わせて41名の方にお越しいただきました。



人材の確保・育成

HUMAN RESOURCES DEVELOPMENT

※人材の確保・育成に関する各目標・実績はフクシマガリレイ単体を対象としています。

全社研修制度の拡充

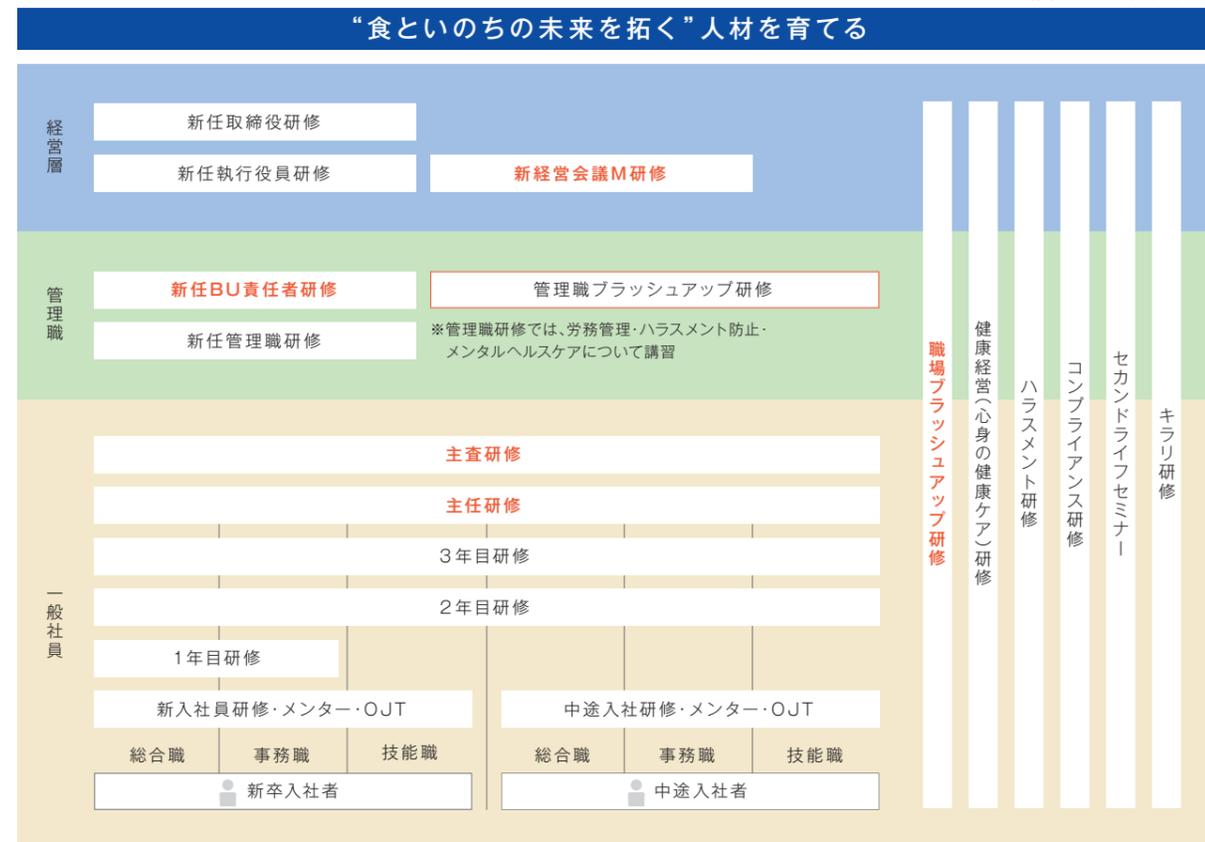
「食といのちの未来を拓く」人材を育てる」をテーマに全社研修制度の拡充を図っています。2022年からは人材力強化と早期活躍支援のための教育課程としてガリレイアカデミーを開校しました。

▶▶ 参照：P.10特集「人材」

また、階層別研修を中心とした4つの研修を新たに実施し、全社研修制度の拡充を図ります。これまでは早期離職を防ぐために若手社員を中心に研修を実施していましたが、さらに中堅社員の成長・キャリアアップ支援と組織力強化のための研修を追加しました。それぞれが資格に応じた役割を認識し担うことで、一致団結して職場の方向性を善くしていき、エンゲージメントの向上を図ります。

全社研修・階層別研修

※赤字は2022年度より追加



健康経営の推進

2020年に「健康宣言」を行い、従業員の健康の保持・増進を積極的に支援していくことを経営方針として明確化しました。2021年には従業員の健康に関する課題を抽出。活動方針や目標を立案する計画に基づき、健康施策の企画・立案・実行・効果検証を行う健康経営委員会(通称：アオハル隊)を発足しました。アオハル隊では、従業員の意識を高めるため、定期的に食事や運動を中心とした健康に関する情報発信を行っています。

健康経営の取り組みについて

● 身体 の健康保持・増進

法定項目の健康診断に加えて、がん検診を実施し、生活習慣病を含む疾病の予防、早期発見の充実に努めています。また、再検査・精密検査・要治療者に対する二次健診や特定保健指導を積極的に受診勧奨しています。



● 心 の健康保持・増進

年1回全社でストレスチェックを実施し、セルフケア機会の確保を図っています。100%受検を目標に受検を勧奨しています。



2021年度には健康経営研修の一環として役員及び部門責任者を対象に、職場のメンタルヘルス問題にできるだけ早く気づき、社員が働きやすさを発揮しやすい職場環境の整備を行うため、「ラインケア研修」を実施しました。

● 喫煙対策・禁煙支援

禁煙意識の動機づけ及び禁煙したい人のサポートを推進するため、2022年6月30日に禁煙宣言を发布了しました。

禁煙宣言

フクシマガリレイは、「幸せ創造企業」を目指し、すべての従業員がいきいきと働き、その能力を最大限に発揮できるよう、健康保持・増進、予防・早期発見に向けた諸施策の推進や明るく元気な職場作りを積極的に進めています。受動喫煙を含む喫煙による健康リスクを減らし、従業員の心と体の健康増進に取り組むと共に、喫煙による環境汚染の低減を目指し、禁煙推進を強化することを宣言いたします。

【目標】2025年度までに従業員の喫煙率を20%以下にする。

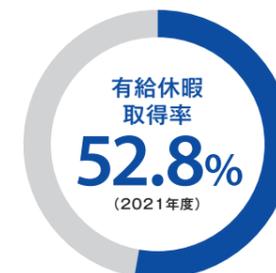


禁煙に関する取り組み

- 2020年度 2021禁煙チャレンジの開催
毎月22日を「禁煙の日」として終日禁煙を実施
- 2021年度 全事業所において就業時間内(休憩時間除く)及び社有車での禁煙を実施
禁煙外来治療費の一部補助を開始
- 2022年度 本社ビル敷地内全面禁煙を実施
毎年5月の世界禁煙デーにあわせて社内へ情報提供

● ワークライフバランスの推進

ノー残業デーの実施、在宅勤務の活用、インターバル制度の導入により長時間労働の抑制に努めています。年度初めには全従業員に取得予定日を申請させることで、計画的な有給休暇取得を推進しています。



TOPICS

ガリレイ体操の実施

2022年に運動施策の一環として「ガリレイ体操」を制作しました。10月から毎日15時に全事業所で実施しています。始業前にはラジオ体操も行い、運動施策の推進を行っています。

健康経営に関する取り組みの方針及び状況の詳細については、ホームページをご確認ください。

健康経営
<https://www.galilei.co.jp/company/wellness/>



ダイバーシティの推進

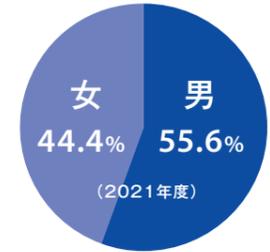
当社では特に女性の活躍推進について、「採用」「定着」「活躍」の観点から目標を掲げ、働きやすい職場づくりに向け就業継続や活躍を支援するための施策を展開しています。

● 文系女性総合職の積極的採用

総合職の女性比率向上のため、新卒採用における文系女性総合職の割合を毎年50%以上とすることを目標とし、積極的に採用を行っております。

また、女性総合職を対象に座談会を実施するなど入社後のフォローアップを実施しております。

新入社員総合職の男女比



新卒文系女性総合職の割合

61.5%
(2021年度)

● 女性の管理職への登用

女性管理職の人数12名を目標値として設定しています。管理職候補となる総合職の主査・主任クラスは、2022年4月時点で18名となりました。

女性管理職の人数

8名
(2022年4月)

職種転換制度

ダイバーシティ推進を目的に、事務職から総合職・地域限定総合職へ職種転換が可能な制度を2016年より実施しております。

[職種転換]

20名

うち
管理職 **3名**
(2022年4月)

男性育休の推進

2022年4月より男性社員が育児休業を取得しやすい職場風土の醸成と取得率向上を目指し、最低連続して5日間（土日を含め最大9日間）の育児休業を取得することを義務付けています。子供の誕生後3か月以内の取得を推奨し、その際の育児休業日5日間は有給休暇として付与しています。

VOICE

男性育児休業取得者の感想

各休暇を組み合わせて約1か月休暇をいただきました。妻と新生児との時間も大切でしたが、長女と接する時間を増やすことで妻の負担も減り、わたし自身は今までで一番長女との時間を費やすことができ、良い機会ができたと感じました。育児休業は妻・新生児は勿論ですが、長女のフォローができたことが良かったと思います。

TOPICS

実業団テニス最高峰の日本リーグに所属 着実な成果とステップアップで女子テニス界の発展に貢献

2017年4月に発足した実業団テニス部は、実業団最高峰の日本リーグに所属しています。2021年度は熱戦及ばず、決勝トーナメント進出の目標は達成できませんでしたが、全体の5位で日本リーグ残留が決定しました。

2022年度は所属部員6名体制で、目標の決勝トーナメントに進出できるように、努力していきます。今後も女子テニス界の発展や環境改善、部員のキャリアデザイン構築や働き方改革に貢献する取り組みとして活動を継続していきます。



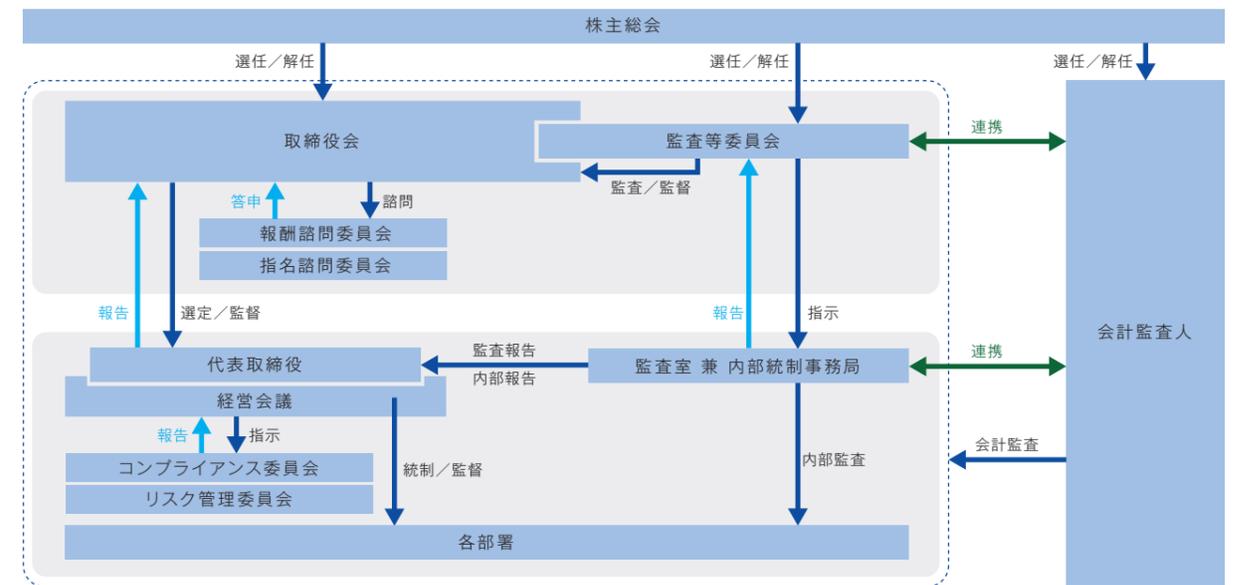
コーポレート・ガバナンス

CORPORATE GOVERNANCE

ガリレイグループは、経営の透明性の観点から公正な企業活動を促進し、社会からの信頼に立脚した持続的な成長及び中長期的な企業価値の向上を目指し、コーポレート・ガバナンスの体制充実に取り組んでいきます。

コーポレート・ガバナンス体制

(2022年11月時点)



取締役会

開催回数
13回



独立社外
取締役割合 **33%**

監査等委員会

開催回数
14回



独立社外
取締役割合 **80%**

指名諮問委員会

開催回数
7回



独立社外
取締役割合 **100%**

報酬諮問委員会

開催回数
3回



独立社外
取締役割合 **67%**

※開催回数:2021年6月29日 第70期定時株主総会后~2022年6月27日 第71期定時株主総会前 ※構成:2022年11月時点

フクシマガリレイは、迅速かつ機動的な意思決定、経営戦略等の議論の一層の充実と監督機能の強化を実現するため、監査等委員会設置会社を採用しています。また、経営陣幹部・取締役の指名や報酬などの特に重要な事項の検討に当たっては、独立社外取締役で過半数が構成される指名諮問委員会・報酬諮問委員会を設置しており、適切な助言を得ています。

コーポレート・ガバナンス強化の歩み

	2008	2015	2018	2020	2021	2022
組織・体制	●リスク管理委員会を設置	●社外取締役を選任	●指名諮問委員会・報酬諮問委員会を設置	●監査等委員会設置会社へ移行 ●コンプライアンス委員会を設置		●取締役執行役員制度導入
その他			●取締役会実効性評価開始 ●政策保有株式の保有基準の明確化・定期的な見直し	●取締役会・経営会議付議基準の見直し	●取締役の個人別の報酬等に係る決定方針を策定 ●ディスクロージャーポリシーを策定 ●サステナビリティへの取り組みを開示 ●コンプライアンスガイドライン改訂 ●社外取締役の独立性基準を策定	●譲渡制限付株式報酬制度を導入、役員退職慰労金制度を廃止

役員一覧・スキルマトリックス

(2022年11月現在)

氏名		福島 裕	福島 豪	福島 亮	片山 充	長尾 健二	水谷 浩三
役職		代表取締役会長 CEO	代表取締役社長執行役員 COO	取締役 副会長執行役員	取締役 常務執行役員	取締役 常務執行役員	取締役 上級執行役員
◎議長(委員長)	取締役会	◎	○	○	○	○	○
	経営会議	○	◎	○	○	○	○
	監査等委員会						
	指名諮問委員会						
	報酬諮問委員会	○					
各取締役が保有する専門性・経験・知見	企業経営	○	○	○	○	○	○
	マーケティング・営業	○	○	○	○	○	○
	製造・研究開発・IT	○	○	○	○	○	○
	国際性	○		○			
	財務・会計	○					
	人事・人材開発	○		○	○		
	法務・リスクマネジメント	○					
	サステナビリティ*1	○	○			○	
	ガリレイフィロソフィの実践*2	○	○	○	○	○	○
	氏名		日野 達雄	竹内 博史	堀之内 健士	藤川 隆夫	吉年 慶一
役職		取締役 上級執行役員	【監査等委員】社外取締役	【監査等委員】取締役	【監査等委員】社外取締役	【監査等委員】社外取締役	【監査等委員】社外取締役
◎議長(委員長)	取締役会	○	○	○	○	○	○
	経営会議	○	○	○	○	○	○
	監査等委員会		◎	○	○	○	○
	指名諮問委員会		○	◎	○	○	○
	報酬諮問委員会		○	○	◎	○	○
各取締役が保有する専門性・経験・知見	企業経営	○	○	○	○	○	○
	マーケティング・営業		○	○	○		
	製造・研究開発・IT			○			
	国際性				○	○	
	財務・会計	○	○		○		○
	人事・人材開発	○	○				
	法務・リスクマネジメント	○	○		○		
	サステナビリティ*1				○	○	○
	ガリレイフィロソフィの実践*2	○	○	○	○	○	○

上記の一覧表は各氏が保有する専門性・経験・知見のうち、当社が特に期待するものを表しています。
 *1 当社におけるサステナビリティとは、ESG・CSR活動を含み、社会と地球環境(多様性、環境、資源など)の持続可能性に戦略的に取り組み、「幸せ創造企業」を実現することを示します。
 *2 ガリレイフィロソフィとは、当社の企業理念・ビジョン・行動指針を包括する普遍的な判断基準であり、その実践において模範となっていくことを期待するものです。

コーポレート・ガバナンスに関する考え方、コーポレートガバナンス・コードに関する取り組みの方針及び状況の詳細については、「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」をご確認ください。
 IRニュース <https://www.galilei.co.jp/ir/news/>



財務ハイライト



